

求められる人材が変わる時代で、 あなたは何を学ぶべきなのか

2020年センター試験が廃止となるのはご存知ですか。これまでの日本は先進国の「成功・正解」をどれだけ早く吸収し、うまく使いこなせるかで勝負をしてきました。つまり「正解」を覚えることが勉強であり、産業界に求められる人材の能力だったのです。しかし、2011年に国は、社会人の基礎力を「**主体性・COM能力・実行力・協調性・課題解決能力**」だと位置づけました。2013年には「世界を舞台に活躍できる人づくりのために」グローバル人材必須の要件が発表されました。そこで上記の基礎力は初等中等教育段階からしっかりと身につける必要がある」と打ち出されたのです。現在、日本の市場はどんどん小さくなり、**経済・産業界は外へ出ざるを得ません**。そうなれば、世界で戦える能力を持った人材が必要となるのは必然です。経団連は「**経済活動の現場では、答えなき課題について主体的に考え、答えを出す能力や、既成概念にとらわれず、イノベーションを起こす能力が求められる。**」と見解を発表しました。これを踏まえて、「**落とす入試**」から「**意欲・能力・適性**」を多面的に総合判断できる制度へ転換が図られます。現状と今後のセンター試験の違いは以下のとおりです。ではいったいどのように合否を決めるのでしょうか？それは**二次試験(面接・AO型)**で決まるということです。結果として各大学独自の試験の重要性は、現状と比べて格段に上がることとなります。しかし、**最大の問題はここではないのです**。これらの教育が受けられるか否かが、自分の所属する地域、学校で格差が露骨に出るところなのです！**根本的な問題は、教師、教育委員会の見ている視野がものすごく狭いところ**です。そして、今回の大学入試改革を後押しする原動力となった「**学校で教師から一方的に教わるような、そういう学び方しか知らない人間は採用したくない**」と産業界が言いだしたにも関わらず、**教育現場はどうかといえば、未だに教師が一方的に正解だけを教える講義形式**なのです**結局のところ、現状維持であり、改革へと視野が向かないのです**。高校生になったら後は自分で考えて・・・ちょっと待ってください。今回の教育改革は大学入試だけではなく、就職にも目を向けなければなりません。なぜならば、**経済・産業界発信の教育改革**だからです。求められる人材像が変わるから、それに伴い**大学入試も変貌**。ということは**高等教育も当然**です。大学入学時(高校1年生)から**職業選択の方向性**を持っていなければなりません。**就職活動をはじめてから意識するのでは手遅れ**です。よって、高校の段階でそれを意識して、考えて、見つけていかなければならないのです。その為には、**知識はもちろんのこと、経験値が必要不可欠**となります。その為には、**NPO・ボランティア活動などの社会活動**を始めていかなければなりません。徹底的に議論し、その中で**具体的な問題場面での解決策を創造し、解決策を多くの人との関わりながら試すことを繰り返す経験**を積み重ねなければなりません。大学に合格した4年後に就職できない未来が待っていたらどう思われますか？高卒よりも大卒の方がよいという時代から、どんな大学へ進学すべきなのか、どんな学部に進学すべきなのかを考える時代になります。**義務教育を終えた高校では学校は何もしてくれません**。全て自分でこの**不安定な時代にマッチングした将来ビジョン**を固めていかなければならないのです。目の前の勉強だけをしていてもこれから先の将来は保証されない。偏差値の高い大学へ合格しても卒業時に就職が出来ないケースが多く出てきています。**必死に偏差値を上げる**ことよりも、**どんな仕事に就くかを考えさせなければなりません**。都立国際高校がバカロレアを実施したことで物凄い倍率になっています。これから社会で求められる能力の教育が受けられる学校として殺到したと考えれば、当たり前ですね。いったい、どうしたらよいのでしょうか？まずは**保護者様や学習塾が守るしかありません**。学校に頼るのではなく、**保護者様が積極的に情報を収集するしかありません**。そのような教育を実践している**環境・先生と繋がり、自分が必要な情報を得ていくしかありません**。